（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本農業高等学校　令和２年度（２０２０年度）学校評価表

１ 学校教育目標

校訓「敬天愛人」と「熊本の心」を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。教師は「人権感覚を磨き、教師力を高め、夢の実現にチャレンジする生徒を育てる」、生徒一人ひとりを正しく理解し、学習の基礎基本を大切にして、志を高く持たせるとともに、地域や保護者、教職員と連携し、目指す生徒像の実現に努力することを目標とする。

２ 本年度の重点目標

１　教師の目標

「人権感覚を磨き，授業力を高めることで，夢の実現にチャレンジする生徒を育てる」

生徒一人ひとりを正しく理解し、学習の基礎基本を大切にして、志を高く持たせるとともに、地域や保護者、教職員と連携し、目指す生徒像の実現に努力する。

２　目標実現プラン

（１）基礎学力向上

ア　生徒一人ひとりを正しく理解し、授業のＵＤ化によるわかる授業を展開する。

イ　教育の情報化と校務のスリム化を図り、指導時間を確保する。
（授業のＩＣＴ化、プレゼンテーション指導、プロジェクト学習指導、等）

ウ　授業への興味関心を高めるとともに、適切な学習評価を実践する。

エ　創意工夫を活かし、思考力、判断力、表現力を育成する。

オ　図書館の活用と朝読書の推進による、読む力、表現する力を育成する。

（２）健全な心と身体を育む生徒指導

ア　基本的生活習慣を確立することで、生徒の健康・安全教育を推進する。

イ　教育相談を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れる体制をつくる。

ウ　部活動を推進し、生徒の心と身体の鍛練と活気溢れる学校生活を実現する。

エ　農業学習、環境保全活動をとおして、自身と他者を尊重し、命を大切にする心と自然を大切にする意識を醸成する。

オ　ボランティア活動を推進し、地域社会に貢献する意識の涵養を図る。

（３）夢実現

ア　農業教育をとおして共同する精神を育むとともに、グローバルな視点で物事をとらえ、国際社会の形成者としての資質を磨く。

イ　身近に起きる様々な課題に対し、周囲と協働して解決することができる。

ウ　キャリア教育の視点に立った系統的な体験学習を通して、進学・就職の意識を高め諦めずに継続して努力する。

エ　専門教育をとおして経営感覚を磨き、地域の活性化に寄与する。

オ　学校農業クラブ活動、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に取組み夢実現にチャレンジできる魅力ある学校をつくる。

（４）キーワード

ア　「大事なことは、本気だったかどうか！」
本気でチャレンジしましたか？　　はじめから諦めていませんか？

イ　「自分が変われば、世の中が変わる」
自分が成長することで新しい自分に出会い、世の中を見る目、意見を聞く耳、正しい判断ができる力が高まり、さらに成長できる。

ウ　「命を大切にする」
命を育て、食を育む農業教育は、毎日が命の教育の実践である。

エ　「保護者と地域は最高のサポーター」
生徒・保護者・教師そして地域が一体となって学校の活性化を図る。

オ　「自己研鑽」
子どもの可能性を信じ、子どもの力を最大限に引き出せるよう教師も絶え間なく自己の研鑽に努める（授業改善、公開授業、技術研修）。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校生活の充実と魅力発信	生徒の学校生活の充実度を向上させ、入学を志願する生徒を増やす。	学校生活が充実していると思う生徒を９０％以上、前期選抜の倍率を全学科２倍以上にするとともに、後期選抜の倍率が全学科１倍以上とする。	授業及び特別活動を充実させ、生徒が主体的に取組み活躍する場を多く設ける。成功体験から自己肯定感を向上させる。研究指定校や生徒募集に係るチームにより１０年先を見越し	Ａ	コロナ禍で学校行事等を様々に工夫しながら生徒と職員が一体となって取り組むことができた。限りある機会を大切にし、各種の大会等に代わり、ボランティア等に積極的に参加する生徒の姿があった。地域に

				た本校の在り方を再構築し、魅力を発信する。		出て貢献できる生徒たちが本校の魅力となっている。前期選抜の出願倍率2.35倍、後期選抜の出願倍率1.14倍と目標に到達できた。
	業務改善	業務内容を精選し、長時間勤務を是正する。	当事者では気付いていない業務改善に係る内容を具体的に掘り起して可視化する。	部会や委員会等の小さな会議を活発化し、職員間のコミュニケーションを図る機会を増やす。良好な関係性を築くことで、円滑に業務を進める。	A	部会や委員会等の会議が適切に行われ、職員間の意見交換が活発に行われた。業務に関しての計画から実施後の課題の整理までできることができた。次の実施に向けての円滑な取組みにつながっている。
	働き方改革	全職員の働き方に関わる意識改革をもとに、働きやすい職場環境をつくる。	長時間勤務が慢性化している職員の勤務状況を改善し、時間外勤務を前年度比で全職員平均１０％削減する。	本校における課題を見える化し、改善すべき業務と現状通り進める業務で整理をする。衛生委員会より長時間勤務の多い職員への呼び掛けを行う。	B	コロナ禍で業務の時期が当初計画よりもずれこんだり、臨機応変な対応を求められた。業務がある一定期間に集中することで改善できなかった部分もあるが、働き方改革に関する意識は改善してきている。
学力向上	授業改善	生徒理解を深め、授業のＵＤ化によるわかる授業の展開。	毎時間の授業の重点目標を「見てわかる、聞いてわかる授業作り」とし、視覚的、聴覚的焦点化に絞った授業のＵＤ化を図る。 研究授業、公開授業においては、特に「聴覚的焦点化」に即した授業展開を行う。 各クラス１回は教科担当者会を開く。	「本時の内容」のプレートを使用し、授業の見通しを持たせ、板書やプリントの見やすさを工夫、ホワイトボードの活用で視覚的に改善する。説明や指示を一人称で行い、一文一動詞として、聴覚的にも改善する。 教科担当者会を開き生徒理解を深めることで、上記に挙げた授業改善内容をより具体的に実施する。	B	授業のＵＤ化を重点目標にし、各学科・教科で授業の工夫・改善が見られた。公開授業週間を２回設定することができ、生徒が落ち着いて授業に取り組めるよう促すことができた。さらに「指導と評価の一体化」を目指し、研究を進めていく。 教科担当者会は各学科で３学期に行う予定を立てた。
	授業確保	授業時数のばらつきを抑える。	曜日、時限による授業時数のばらつきを４時間以内に抑える。	学校行事等の見直しと削減及び週時数の割り出しを早く行い、曜日・時数制限をこまめに行う。	B	今年度は休校から始まったが、行事が削減され、授業時数は十分確保できた。
キャリア教育（進路指導）	系統的・計画的進路指導の充実	３年間を見通した進路指導の実施。 現状分析と情報の提供。	生徒の進路意識の向上や社会の変化への理解を図る。 学力面の現状を分析し、必要な対策を取る。	キャリアパスポートを使うことで、生徒自身に行事等の取り組みを記録し、分析させる。 各学年で模試などの結果について分析を行う。	B	年度始めの休校でキャリアパスポートに取り組む時間の確保が難しかった。生徒の活動実績が重要視され様式等のカスタマイズが必要である。 模試の学力分析について講師を招き研修を行う予定。分析と結果の生かし方を検討する。
	キャリア教育の充実	進路実現に必要な力をつける指導の実施。	生徒が適性を理解し、学校生活の中で進路実現に必要な力を身につける。	講演会やガイダンスを活用する。	A	コロナ禍で多くの催しが中止されたがオンラインで校内説明会を実施。進路への具体的な意識を高める機会にできた。

生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒が心身の安定を図ることで、遅刻や欠席なく登校できる。 ＴＰＯに応じた挨拶や礼儀、整容が身に付いている。	遅刻や欠席数について、生徒の個人内評価の観点を大切にして少しずつ減らす。 挨拶や礼儀、整容についての定点調査を実施し、９割以上の生徒がＴＰＯに応じた挨拶や礼儀が身に付き、整容を考えて行動している。	職員は年間をとおして登校指導を実施し、遅刻や欠席する生徒の気持ちに寄り添った丁寧な指導を展開し、生徒たちが安心して登校できるように声掛けを行う。 遅刻や欠席のある生徒は、背景にある課題を含め組織的に多方面から支援する。 適宜、挨拶や礼儀、整容の指導を実施し、職員と生徒が対話的なコミュニケーションを図ることにより、生徒が自己のあり方を考える機会をつくる。	B	年間をとおして生徒昇降口での声掛けを行った。マスク着用や服装、遅刻の指導などに効果があった。 学校アンケートにおいて９３％の生徒が校則を守るよう意識して生活をしていると回答した。引き続き生徒たちと一緒に校則を考えていきたい。 職員と生徒が対話的なコミュニケーションを図る場面が増えている。昨年に比べ、生徒の悩みを聞くことやトラブルの早期解決ができるようになった。
	交通安全の推進	ルールやマナーを守り安全に通学できる。	登下校中の交通事故発生件数を全校生徒数の３％（２５件）以内とする。	学期初めに登下校時の交通安全指導を実施する。 登下校時の状況を積極的に確認し、改善の必要があるときは速やかに具体的な指導を実施する。	B	登下校時の事故は２０件と目標は下回ったが、地域からの交通に関する苦情があった。 新型コロナウイルス感染症の影響で、交通安全指導等の集会を実施できなかった。
	生徒会活動の充実	生徒にとって学校行事が充実したものになっている。 各種委員会活動や部活動が活発に活動している。	行事実施後のアンケートにおいて「充実した」と答えた生徒を８０％以上とする。 各種委員会や部活動等の１００％が活動実績を残す。	生徒の声を大切にし、生徒会を中心に魅力ある行事内容の積極的改善を図る。 活動実績のない組織に対して、ボランティアの斡旋や企画への協力依頼をして活性化を図る。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で、体育大会やクラスマッチが中止、南園祭は縮小となった。 委員会活動はボランティアや人権に関する活動など、新たな分野の取り組みを取り入れ、活性化することができた。
人権教育の推進	人権問題の正しい理解とその合理的判断力の育成	職員研修の充実。 人権が尊重される授業。	年３回、職員研修を実施する。 生徒理解のため、全職員の連携を図る。	指導力を向上させるために、問題事例に学ぶ。 生徒の個性に応じた指導を行うため、生徒理解研修及び教科担当者会を実施する。	B	コロナ禍における職員の在り方について研修を行うことが出来た。教育相談と連携して、支援が必要な生徒について教科担当者も学期毎に振り返る手立てが出来た。
	基本的人権尊重の精神と実社会での実践力の育成	身の回りの差別問題についてＬＨＲを実施する。	年３回の人権教育ＬＨＲにより、実生活に役立つ、実践的な知識を身に付ける。	各学年のＬＨＲテーマを次のようにし、指導案を作成、学期に１回実施する。 １年：いじめ・ハンセン病・職業差別 ２年：男女共同参画・部落差別・進路保障 ３年：進路差別・結婚差別・３年間の人権教育のまとめ	A	ハンセン病や差別的な言葉に関するＬＨＲについて、生徒の状況に応じて指導案を見直し、実施した。「人権感覚を磨くシリーズ」として生徒の人権意識を促すための読み物を配布した。校内人権懇談会を立ち上げ、生徒と職員による意見交換を２回実施した。

いじめの防止等	未然防止への取組強化	生徒たちが安心・安全な学校生活を送ることができる。生徒がいじめられなくてよい、いじめなくてよい環境である。	いじめの発生件数を前年度（１５件）以下とするが、いじめと疑われる事案が発生した場合は、この目標に囚われず、積極的に認知する。	担任に対して、ＨＲ等を活用し、月に２回以上のいじめ防止に関する啓発を実施するよう依頼する。 生徒の心の安定を図るため、全職員が生徒一人一人を尊重した言動をとる。 いじめに関する職員研修を実施する。	A	いじめの発生件数は１１件であり、昨年度の１５件を下回った。朝会要項にいじめや人間関係のトラブルについての啓発を載せ、担任からＨＲにて周知をし、生徒たちを観察した。職員研修は弁護士からいじめと法律についての研修を実施した。
	早期発見による取組	いじめが発生した場合は、問題の解決が難しくなる前に早期発見できる。	生徒がいじめを受けた場合、すぐに相談することができる体制をつくる。 職員は、いじめを発見できるよう常に生徒を観察する。 いじめと疑われる事案を発見した場合は、いじめ問題対策委員会を開催し、積極的にいじめを認知する。	ＳＣや生徒相談員を中心とした校内の相談体制の充実を図る。 心のアンケートやスクールサイン等のいじめを相談できるツールを活用する。 職員は生徒の学校生活を広く観察して積極的に関わることで、いじめの発見につなげる。 いじめが疑われる事案のうち、深刻でないものであっても積極的に認知する。	B	ＳＣや生徒相談部、保健室等で生徒が相談しやすい雰囲気をつくり、多くの相談があった。 心のアンケートやスクールサインでの認知もでき、効果があった。 日常生活の中で、いじめの対象になりやすい生徒を常に観察し、職員から声をかけることもあった。 いじめは積極的に認知することができた。
	発見後の対応	いじめの解決に向けて迅速かつ組織的に対応できる。	いじめ対応マニュアルに沿って対応する。 いじめ問題対策委員会を開催し、発見後の対応を協議する。 対応後はマニュアルや委員会での決定事項に沿って適切に行動できたかを検証する。	いじめを発見した場合は、いじめ対応マニュアルに沿って、すぐに状況確認を行い、管理職の指示のもと、関係分掌部と連携して対応する。 状況に応じていじめ問題対策委員会を開催し、対応について協議する。	B	いじめと疑われる事案を確認した場合、いじめ対応マニュアルに沿って、すぐに状況確認を行った。解決は管理職の指示のもと、関係分掌部と連携して対応できた。 定例会に加え臨時のいじめ問題対策委員会を開催し、対応について協議した。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	地域と本校との連携強化	具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定した避難所・学校運営ができる。	学校運営協議会開催、避難所運営委員会開催、自治体と市と学校との合同防災訓練を実施する。	B	新型コロナ対応のため一堂に会する機会は殆どなかったが、お互いに連携は取れていたように思われる。
	生徒の防災意識の高揚	具体的方策の実施状況と成果。	大規模災害の発生を想定して自主的・協働的な行動ができる。	防災教育ＬＨＲ＋避難訓練実施（年３回）、防災意識を高める授業展開、防災便りの発行など。	B	全学年が体育館に集まることは出来なかったが、工夫することで学年ごとに年度当初の計画は実施できた。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する日常活動の充実	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができる。	アグリマイスター顕彰制度による積極的な評価。 研究指定事業を活かしたわかる授業と適切な学習評価の実施。	アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が知識や技術・技能への自信を深める。 事業で行う生徒アンケートを分析し、授業及び評価の改善につなげる。	A	今年度のアグリマイスター認定者は６０名であり、昨年度（39名）から大幅に増加した。 研修指定事業を通して授業や評価に関する研究・改善を継続的に行い、１２月の報告会では一定の成果を得た。

	農業の良き理解者を増やすための地域貢献活動の推進	農業教育を通じた地域貢献活動と学校ＨＰ等によるＰＲ活動。	全学科による開放講座の実施。 学科の魅力ある学習や取組を月２回以上学校ＨＰで発信する。 注文販売の実施。	公開講座を通して、参加者の方々に熊農の魅力を伝える。 ＨＰ更新状況を学科主任会で確認し、全学科で魅力発信に取り組むことを常に意識する。 チラシ、学校ＨＰを利用して学校生産品を広く地域に紹介する。 各学科におけるプロジェクト学習、課題研究を充実させる。	Ｂ	公開講座は全学科で募集を行い、昨年を上回る９４名の応募があった。（開催は中止） 限られた教育活動の中で、各科のＨＰ更新を積極的に更新した。 コロナ対策として、販売会チラシを作成し、農作物や加工品の一部を注文販売とした。 学校農業クラブ活動をはじめ、各種大会で多数入賞を果たした。

４ 学校関係者評価

（１）保護者の意見

ア　授業充実に関すること

・子どもからよく授業が分かりにくいと聞く。少しでも改善して頂けると有り難い。
・授業中騒がしいと聞いた。授業を受けたい子もいると思うので、きちんと対応してほしい。
・授業中話し声で内容が聞き取れないという話を度々耳にする。妨げとなる行為には先生方から注意をお願いする。字が小さい先生もいるみたいなので、受けやすい授業の取り組みをお願いする。
・個人個人の学力向上に期待したい。
・動物や農業や色々経験できているようで、親としても、熊農に行かせて良かったと大満足。

イ　生徒の指導に関すること

・頭髪検査の基準をもう少し緩和していただきたい。
・自転車通学している生徒の一部が信号無視で渡ったり一時停止していなかったりする所を多々目撃する。大きな事故に合う前に今一度学校の方でも指導をお願いする。
・もう少し携帯の扱いを減らして欲しい。もっときちんとした、メリハリのある学校生活を送らせて欲しい。
・敬天愛人バッグ以外の許可、休日の運動着での登下校の許可など、子ども達の気持ちに寄り添って下さる気持ちがありがたい。

ウ　学校行事に関すること

・コロナ過で今までと同様にはいかないと思うが、できるだけ保護者参加型の様式をすすめて欲しい。

エ　部活動に関すること

・部活動の終了時間が遅い。先生がその場を離れた後２０分ほどして生徒が閉じまりをして帰宅している。
・古き良き伝統は残し、今の時代にそろわない伝統は無くした方がいいと思う。

オ　ＰＴＡに関すること

・いつも楽しく参加させて頂き、前向きなご意見頂いている。

カ　保護者との連携に関すること

・学科によってはバンドを活用し学校行事をこまめに連絡下さるのでとても助かっている。
・行事に関しては早めにプリントで知らせてほしい。仕事の都合もあるため。
・学校評価アンケートのように「プリント配布しました」などメールでお知らせして頂けると子どもに確認できて とても有難い。

キ　地域連携に関すること

・せっかく様々な加工食品、野菜などの生産をしているので、保護者や地域の方々が購入できる敷地や店を出して欲しい。熊農生が頑張っている姿を応援したい。

ク　施設設備の利用等に関すること

・トイレが汚れていたり、トイレットペーパーがなかったりしたことがあるので気になる。

ケ　教師と生徒の関わりに関すること

・楽しく登校している。交友関係は詳しくはわからないが、部活では同級生も仲良くしてくれ、先輩も良くしてくれている。進路については、親もしっかり子どもとコミュニケーションを取りたいと思う。
・クラス内の雰囲気が良くないと言っている。全生徒の意見を傾聴して頂きたい。
・厳しさのなかには達成感があり、生活のなかに楽しさがある高校生活が過ごせるような環境整備をしていただけるとありがたい。学校のお話の中に、最初から頭打ちをしてしまっている言葉が多く感じる。もっとひとりひとりの伸びしろを信じてほしいと思う。

コ　その他

・今のままで、素晴らしいと思う。

（２）学校評議員・学校関係者評価委員の意見

・本県農業教育の中心校として、他の関係高校と連携を図り地域活性化のリーダー育成に尽力され

ることを期待する。
・今年は、どの教育施設も新型コロナウイルスにより、学習・活動・行事が計画通りにいかなかった。その様な中、貴校の生徒達が地域に出かけ、野菜やくだものを販売する事で、喜びと活力を与えてくれている。今後も地域を土台とした取り組みを有難く期待する。
・いじめ問題について、職員は見逃さない98.5%、生徒は16%が見逃していると評価している。この差は職員が本当に生徒に寄り添っていないのではと思う。いじめ対策は一人の職員に任せるのでは改善しない。いじめは数人のグループでやるため。職員もそれ以上の人数で対応すると負担が軽くなる。
・全体的に充実した生活を送っているように思う。控えめな生徒も多いように感じるが、もう一歩前へチャレンジして更に充実させてほしいと思う。

（３）職員の意見
・小学校・中学校もＩＣＴ化が進んでいる中で、本校におけるＩＣＴ教育の環境整備を計画的に進めてほしい。例えば、毎年、学年単位で各教室に電子黒板やプロジェクター等の設備を取り付けるなど。コロナ対策にも効果的である。

５ 総合評価

本年度は年度当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校となり、厳しくまた新しい学校教育の取組みを模索する１年間となった。教育スローガンに「夢実現へ志高く！～夢に向け即行動、そして継続～」を掲げ２年目となり、生徒の夢を実現に導く学校として行動できるように取り組んでいる。

特別支援教育や教育相談を中核に据えた生徒支援や授業のＵＤ化による授業改善等に全校で取り組んでいる。その取り組みを受け、生徒による学校生活評価アンケートでは、「本校に入学して良かった」との回答は９２．４%で昨年度と一昨年度の８９．０%を３．４ポイント上回った。また、「目標を持って学校生活を送っている」との回答は７９．９%で昨年度を１．８ポイント上回ったが、入学以前あるいは入学後に目標を抱き、諸活動につなげることで、３年間の学校生活が充実し、卒業時に入学して良かったと言える生徒が増えていくように支援をしていく必要がある。また、保護者からは、「お子さんは楽しい学校生活を送っている」との回答が９６．７%で昨年度を０．６ポイント下回ったが、「授業に達成感や満足感を持っている」には７９．２%と昨年度を１．４ポイント上回った。授業以外の活動に関する回答も昨年度を上回り、学校生活を充実させることに期待を持たれている。さらに本年度の特徴として、家庭内での話し合い等に関する回答は多くの項目で昨年度を下回り、今回のアンケートを機に家庭内での振り返りにつなげられたと感じている。

本年度はコロナ禍で生徒が活躍する場面が少なかったが、少ない機会でも日頃の活動の成果を出してくれた。地域からも生徒が校外に出て地域の方々と接する機会は、高齢者世帯等の見守りにもつながるもので有難いとの声をいただいている。これまでも地域や関係の産業界と連携を取りながら様々な教育活動を実践してきた。このことが今後の学校の魅力化や社会に開かれた教育課程につながっていくものと確信し、教育課程研究指定校事業等を活用しながら、新しい時代に則した農業高校としての在り方を構築していく。

６ 次年度への課題・改善方策

（１）次年度への課題
①入学して良かったという生徒の割合をさらに高める。
②授業の教え方や説明が分からない生徒の割合を減少させ、授業への充実感の向上。
③様々な生徒への実態を則した支援の在り方や関わり方の工夫。
④継続して生徒及び保護者の理解を得られていない一部の校則の見直しと検討。
⑤生徒間のいじめがあるため、いじめの起こりにくい学校をつくる。
⑥様々な事案に対して職員個々の対応とせず、組織的に対応するために円滑な職員間の連携。
⑦本校の魅力化をさらに図り、学習内容等を広く情報発信する。
⑧新しい時代を見据えた教育活動の実施。
⑨地域及び産業界との連携を深め、学びのさらなる充実。

（２）改善方策
①生徒が将来を前向きに捉え、夢と目標を持って学校生活を送れるように、授業及び学校行事を生徒と職員が一体感をもって取り組む。
②全教科で授業のＵＤ化を定着させ、授業改善に取り組む。
③生徒理解研修や教科担当者会を実施し、支援を要する生徒に職員が共通理解のもと対応する。
④見直しが必要な校則を生徒及び職員から意見を出し、意見交換をしながら見直しを検討する。
⑤生徒のＳＯＳの発信を受け止め、いじめ等の事案発生に早期に気付くことで早期の解決を図る。全教科で人権教育及び道徳教育の充実を図る。
⑥日頃の部会や学科会等の小さな会議で意見を積み上げ、考えを交換していく。
⑦学校ＨＰを最大限に活用し、本校の学習活動等を積極的に発信する。保護者へは熊農メールを活用して情報を共有し、保護者の協力を得て取り組んでいく。
⑧新学習指導要領の導入準備を行いながら教育活動の充実につなげる。教育課程研究指定校事業を活用しながら指導と評価の一体化を実践する。
⑨社会や地域、産業界に教育課程を開き、積極的に助力を得ていく。